

浄土真宗文化財調査プロジェクト

野帳通信

第1号

令和3年
4月1日

この浄土真宗文化財調査プロジェクトは平成十八年度(二〇〇六)にスタートしました。これまで北部九州を中心に寺院調査を積極的に行っており、この通信ではこれまで調査した文化財について紹介していきます。

〈竹林山西蓮寺〉

寺伝によれば西蓮寺(中川正法住職、筑紫野市)は、天正十四年(一五八六)、無住の寺院に宗念が入寺した時に始まる。『筑前続風土記拾遺』等には、第一世宗念が、豊後竹田の岡城主中川因幡守久通公の一族であると記されている。

〈西蓮寺の親鸞聖人絵伝〉

本願寺第十四世寂如の裏書をもつこの絵伝は、享保五年(一七二〇)西蓮寺第七世泰月のときに取次内繕により奉納され、これまで三百年近く同寺に伝えられてきた。この由緒は作品の旧裏書や包紙や箱蓋の墨書から確かめられる。



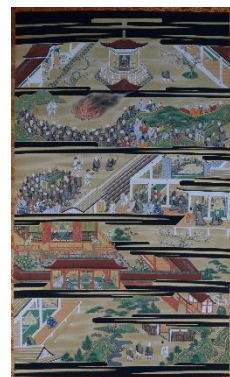
第一幅



第二幅



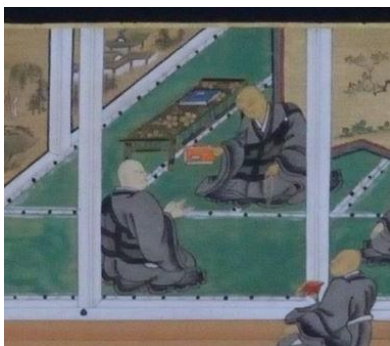
第三幅



第四幅

西蓮寺所蔵 「親鸞聖人絵伝」

親鸞聖人の伝記を型どおり描いているが、細かな筆遣いと上質な絵の具による彩りは優れている。横にたなびく濃紺の霞が華麗な画面を引き締めている。また、とくに画中画(絵の中に描かれたふすま絵など)には、いろいろな画題が丁寧に描かれていて、細部にこだわる画家の意識がみられて興味深い(下段図1・2参照)。江戸時代中期の本願寺の絵画制作に関わる工房について考えるヒントを与えてくれる好例である。



第二幅「選択付属」

右図は法然上人から親鸞聖人へ『選択集』が手渡される「選択付属」の場面である。法然門下でも『選択集』の書写や真影の図画を許された弟子は極めて少ない。



図1 第四幅「平太郎参上」



図2 上図部分拡大
画中画「金地波に兎図」

- 〔作品基本データ〕
- ・「親鸞聖人絵伝」全四幅
- ・絹本着色、掛幅装
- ・縦一三三、七センチ×横七八、七センチ
- ・裏面貼紙墨摺銘(四幅共)
- ・「釋寂如(花押)」
- ・「大谷本願寺親鸞聖人之縁起」
- ・「願主釋」
- ・「旧包紙墨書銘(四幅共通)」
- ・「御絵伝／筑前国御笠郡萩原村西蓮寺泰月／享保五庚子年五月朔日／取次内繕」
- ・「旧箱蓋表墨書銘」
- ・「筑前萩原村西蓮寺取次内繕」

発行

北部九州真宗文化史研究会 (筑紫女学園大学)

八一八〇一九二 太宰府市石坂2の12の1

筑紫女学園大学人間文化研究所内

電話／ファックス 〇九一九二五三三五一(代表)